

第 77 回日本ハンドボール選手権大会 参加報告書

島尻真理子・比嘉由紀乃

(文責：比嘉)

広島県広島市において、12月17日(水)～21日(日)の日程で開催されました日本選手権大会及びトップレフェリー研修会に、島尻真理子・比嘉由紀乃ペアとして参加させていただきました。ハンドボールのイメージを守るという共通認識のもと、「危険行為に対する判定の基準」・「スポーツマンシップに反する行為」についての理解を深め、ゲームマネジメントや判定基準に関する「分析の視点」に重点をおいて行われたオープンディスカッションについて報告させていただきます。

1. レフェリーミーティング (オープンディスカッション) について

今大会におけるグループディスカッションは、以下の要領で行った。

- (1) 会場ごとに割り当てられたレフェリーでグループを作成。
- (2) グループごとにテーマを決め、翌日のレフェリーミーティングのための映像クリップを作成。
- (3) 提示された映像クリップに対して、まずはレフェリー団でディスカッション。それを受けて、大会審判長、アセッサーが指導助言。
- (4) その後、アセッサーおよび大会審判長がその日のミーティングのために主に前日の試合から映像クリップを作成し、全体で共有。

日時	内容	備考
12月17日(水) 8:30～10:30	【福島審判長による講義形式】 今大会の重点事項についての確認 1. ゲームマネジメントの視点 2. 判定基準の視点	(参考資料) 令和7年度第77回日本ハンドボール選手権大会 審判関係資料
12月18日(木) 8:30～10:30	・違反を起こさせないための予防的行動とは ・「選手を守る」ためにはどう判定すべきか ・吹いた笛が「はたしてその場面に必要なものなのか」という視点 ・攻撃側と防御側は両者同等	【キーワード】 ・大きい事象なのか、小さい事象なのか (1 試合を通じたゲームマネジメント)
12月19日(金) 8:30～10:30	・大会が求めていることや流れを汲み取る ・良い大会かどうかを決めるのは「負けたチーム」 ・見る位置の重要性 (正しい判定に繋がる) ・激しい攻防が繰り広げられる中で魅力あるハンドボールの展開をするにはどうすべきか? ・攻撃側の違反を判定する際の基準 ・決勝で「どういうプレーを選手にして欲しい」という思いで笛を吹いているのか? ・明日があるチームにこそ正しく吹く ・ビデオ判定システム (以下、VR 表記) の説明は「判定+再開方法」まで行う	【キーワード】 ・位置取り、観察眼 ・余計な笛 ・各種スローの正しい実施 ・一貫性 ・ボールのないところでの事象 ・プロトコル

<p>12月20日(土) 8:30~10:30</p>	<p>・正しい判定を行うため、以下のような場合、VRの使用を検討。 (例)・2分間の退場を適用すべきか、あるいは8:5、8:6、8:9、8:10 または 8:11 に基づく失格を適用すべき事象なのか ・レフェリーの視野外で起きたことの確認 ・競技終了前30秒間の、ボールの所持が変わる可能性があるかもしれない事象 ※ 使うタイミングを間違えると荒れに繋がる ・「見るポイントや、確認したいことは何か？」を明確にし、ある程度の根拠、判定を持ってVRを使用する。 ・VRを使用した場合は、絶対に間違っはいけない(罰則の対象者や適応する違反等) ・説明の手順は、(1)何を確認するためにVRを利用したか、(2)VR利用の結果、(3)判定と再開方法という流れで行い、根拠に基づいた説明を行うことに留意する。</p>	<p>【キーワード】 ・VR</p>
<p>12月21日(日) 8:30~10:30</p>	<p>・試合における「重要な場面」の捉え方 ・重要な場面の際、ペアとして、具体的にどんな声かけをしているのか? ・勝負を決するプレーに繋がる場面ほど、コートやボールから<u>決して</u>目を離してはいけない ・コート内への100%の集中が正しい判定に繋がる(コート外(ベンチ)ではない) ・大事な場面ほど得点チャンスはよりクリアに ・終盤における高い集中力</p>	<p>【キーワード】 ・分析方法、視点</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ゲームの終盤をしっかりと振り返り、「そこに向けて、序盤にどのような判定をしていたのか?」という分析の仕方が重要。その大前提として、起きた事象に対して、競技規則に基づいて正しく判定すること。</p> </div>

2. 今大会及び研修会を振り返って

今回、改めて競技規則の前語りの重要性を認識するとともに、本当の意味での競技規則の理解の必要性を実感しました。また、研修の中でも特に私が感化された内容は、「ゲーム終盤でどんなプレーをして欲しいと思いつつながら、序盤を判定していたのか」、「ファイナルでどんなプレーをして欲しいと思いつつ笛を吹いているのか」という分析の視点です。これまで、自身の映像を振り返る中で1つ1つの事象に対する分析は行っていましたが、1試合の中だけでなく、大会期間全体まで意識した分析という部分までは考えが及んでいなかったこともあり、今後の研鑽に繋がる新たな視点を得ることができました。選手やチームとともにより良いハンドボールを目指すべく、明確な理論と根拠を持ち、毅然とした態度で判定できるレフェリーになれるよう、これからも自己研鑽に励みたいと思います。